

とうきょうすくわくプログラム活動報告

施設名 さつき保育園中村橋

施設所在地 東京都練馬区貫井 2-1-26

法人名 フミ・コーポレーション株式会社

1. (活動のテーマ)

植物 (いちご)

(テーマ設定理由)

園の保育方針の1つ自然物遊びを通し情緒豊かな子を育むという保育方針がある。その中子ども達は子ども環境管理士、自然ナチュラリストの資格を有する職員と日々草花に興味を抱いている道端で見つけた蛇イチゴに興味をもち「食べられるの?」との問いが子どもたちからあがった。これをきっかけに園で蛇イチゴを育てている。その中で食用のいちごと蛇イチゴの違いなど子ども達からどんな探究活動を見せられるのだろうとテーマに設定した

2. (活動スケジュール)

1. 蛇イチゴの栽培、観察 (令和7年4月～現在)
2. 絵本やイチゴの断面図図鑑で興味を深掘り (10月)
3. いちごのおはなし (11月)
4. いちごを助ける虫のお話 (12月)
5. いちご狩りごっこあそび (2月)
6. 移動果樹園でいちご狩り (3月)

3. (活動の為に準備した素材や道具、環境の設定)

素材

いちご図鑑・絵本・お花紙・ビニール袋・画用紙・へびいちご苗・収穫用カップ・手作りいちご畑
・ポスター

環境

クラス単位で探究活動を行った
一人一人の探究を見守り共感する言葉がけを心掛けた

手作りのイチゴ狩りごっこの環境を準備し興味を引き出した（みどり、白、赤いちごを用意大きさ形も変えていちご狩りしやすいようマスキングテープを使うなど工夫した）
保護者の方や地域の方にも一緒に探究してもらうため、移動果樹園へのお誘いをした
（ポスター掲示・園だよりで周知）

4.（探究活動の実践）

いちごを給食で提供する機会を増やす
自分たちで育てている蛇イチゴの花や実の大きさを思い出しながら図鑑で確認
いちごの手遊びをしながら、いちごの色に興味を持つ
いちごを製作し、いちごに粒があることを思い出す
製作したものでイチゴ狩りごっこを室内で楽しむ
移動果樹園で実際に五感を使い収穫体験を楽しむ

（活動中の子どもの姿、声、子ども同士や保育者との関わり）

自分たちの育てている蛇イチゴを1年観察してきて、黄色の花が咲き実がなることを子どもたちは知っていた。蛇イチゴを食べ「味がしない」という子がほとんど。冬には枯れたように何も植木鉢になくなり春暖かくなり葉がつきはじめると、「見てみていちごの葉っぱだよ」と教えてくれる姿がある。
給食提供のイチゴを見て「へびいちごより大きい！」と驚く子。「甘い」とへびいちごとの違いに気が付き友達に同意を求める子がいた。各クラスいちごへの興味関心が高まってきたので、室内にいちご畑を用意。手作り製作なので、においや感触は本物とは違うが籠に摘み取ったいちごを入れ「いらっしやいませ〜」といちご屋さんになりきったり、いちご狩りにきたお客さん役の子が出てきたり、子どもたちだけで、遊びを展開させて楽しむ姿が見られた。3月移動果樹園を利用し本物のイチゴの収穫体験を行った。苗が沢山運ばれてきた様子を見て、「蛇イチゴは小さいけど、あれは大きい！でっかいよね〜」と叫ぶ子がいた。各クラス外へ出ていちご狩りを楽しむ中「いいにおいがする」「いちごのにおいはおいしそうなおい！」とお友達と感想を述べる子がいた。大きさの違いに気がつき大きいイチゴを選ぶ子が圧倒的に多い。イチゴひとつひとつの色の違いにも気が付いた。「赤いいちごがおいしそう」と言う子に対し「これも赤？」とまだ薄い赤のイチゴを指さし摘みとろうか悩む子も。
イチゴの柔らかさに気が付いた子がいて、「柔らかい！つぶれたー！」といいながらべたべたの手を見せてくる子は室内の偽いちごとの感触の違いに気が付いた。
保育者が粒の色の違いに気が付き、子どもに声を掛けると興味津々だった。果樹園の方に粒も黄色より赤いほうが美味しいいちごの証だよと教わり子どもたちは粒の色も見ながらいちごの収穫を楽しんでいた。蛇イチゴは黄色のお花が咲くけど、ここにあるいちごのお花はどうだろう？と問いかけると、「白いねー蛇イチゴじゃないから白いんだよ」と種類の違いに気がついた。
保護者の方も参加。香り、色、形、大きさ、優しくイチゴを扱うことを子どもたちと確認しながら、一緒に探究活動を楽しんだ。



いちご畑を室内に。



もぎ取ったらまた自分たちでいちごをつけます



移動果樹園 本物のいちご畑



優しく持ちます。赤いイチゴを選んだよ

5. 振り返り

こども発信の気付きが多くあり、それを他の子にも共有し皆で考えることで様々な意見に触れる場ができた。子どもたちからの発言や発見を見守る事の大切さやどのような環境を用意するかにより興味を持ち集中して取り組む姿勢にも影響を与えると感じた。本物に触れる経験はとても大切で、絵本や偽物では味わえない活きた感覚を養えるのだと感じました。自然な形、色、香り。豊かな感性を育む体験がこの年齢の子どもたちには必要だと改めて感じられた。一人一人の感じ方、捉え方、今後も子どもたちの探究心を大切に共感し耳を傾け、一緒に探究活動を楽しみたい。



いちごのおはなしを聞いています



大きさ比べ



つぶつぶ何個あるの？って。数えてみて。